

令和元年度第3回石巻市震災復興推進会議 会議録

1 日 時 令和2年2月5日（水）午後3時～午後4時30分

2 場 所 石巻市役所4階 庁議室

3 出席者

【委員】18名（別紙参照）

【オブザーバー】宮城復興局石巻支所、宮城県東部地方振興事務所

【当局】市長、復興政策部長、総務部長、財務部長、復興事業部長、半島復興事業部長、生活環境部長、健康部長、福祉部長、建設部長、病院局事務部長、教育委員会事務局長、復興政策部次長、産業部次長、半島拠点整備推進課長、健康推進課長

4 会議概要

議事

(1) 報告事項

ア 令和元年度第1回石巻市震災復興推進会議における御意見等への回答について
（資料1に基づき復興政策課長説明）

【委員】

市民懇談会を数年続けているが、複合文化施設の運営等についての問題は懇談会の中で議論し進めていきたいということだった。しかし、その懇談会が現在開催されておらず、市に対して早くやっていただきたいと要望しているが、資料1の中では、「必要に応じて開催を検討する」となっている。今後の予定について伺いたい。

【教育委員会事務局長】

複合文化施設の市民懇談会については、昨年3月が最後の開催となっており、委員おっしゃるとおり、それ以降開催がない状況である。しかし、市民懇談会自体が終了したということではなく、施設の管理面や建設面も整備が進んできていることを踏まえ、新年度に改めて委嘱をさせていただき、開催することについて、内部で検討をしている。

【委員】

できるだけ早くお願いしたい。

イ 「復興・創生期間」後における東日本大震災からの復興の基本方針

（資料2に基づき復興政策課長説明）

質疑なし

(2) 意見交換

ア 半島拠点地区整備事業

（資料3に基づき半島拠点整備推進課長説明）

【委員】

鮎川浜のコバルトラインの整備状況を伺いたい。

【牡鹿総合支所長】

半島部の県道であるコバルトラインについては、現状工事着手している部分はない。県道2号線については工事中であり、令和2年度内の完成を目指しており、牡鹿地区等では復興道路も整備しているが、令和3年度に完了する部分もあるかと思う。

【委員】

金華山への従来の道はうねりがある。コバルトラインが開通したときには、地域の集客力が上がった。鮎川がより魅力的になり、観光振興が活発になるためには、アクセス道路の整備が必要と考えるため、担当部署への働きかけも行うべきである。

【副会長】

「陸上交通」としての県道の整備だけではなく、ホエールタウンから金華山への動線という意味で考える必要がある、という御意見として承る。

【委員】

雄勝と牡鹿の施設運営について伺いたい。

【半島拠点整備推進課長】

鮎川の観光物産交流施設、おしかホエールランドについては、指定管理により運営することとしている。4月にオープン予定である雄勝については、指定管理を目指す、当面は直営として一部業務委託で運営する予定である。

【副会長】

雄勝については、伝統工業という点から、小学校高学年のカリキュラムから出てくるとすると、「観光」だけがターゲットではなく、地元の子どもたちが生まれ育った街を知るためにも重要な拠点になる。石巻に住んでいる子どもたちが、地元を愛する一つの起爆剤となるような魅力的な取組を期待する。

イ 心のケア等の被災者支援

(資料4に基づき健康推進課長説明)

【委員】

自死に至る方が増えているのが懸念される。その要因として考えられるものを伺いたい。

【健康推進課長】

男女の割合を比較すると、男性が多く、中でも働き盛りの30～50代の自殺死亡率が、全国と比べてもやや高い状況にある。また女性についても、40～50代の自殺死亡率が、全国と比べても高い。また、無職の方ということではなく、仕事をしている方も多いことを踏まえると、仕事をされている方でいえば、職場における人間関係の悩み、過労やうつからも、自死に至る方が多いのではないかと推測される。

しかし、自死というのは、一つだけではなく、健康問題や経済問題、家族問題などの複

合的な要因が重なり起こるものと考えられているため、自死に至る前の段階で食い止めたいたいと考えている。

【副会長】

各地区の住民代表の委員について、地区の様子はいかがか。

【委員】

河北地区にある大規模団地では、その団地に入居する以前の仮設住宅の段階から、元々住んでいた地域を中心に、河北、北上、雄勝など各地区の出身者でまとまったコミュニティが作られている。

資料を改めて見ると、何かあったときに気軽に話せる相手がいらない、相談する相手がいらないことが問題と考えられる。大事なのは地域コミュニティの再生である。石巻市では、県の地域コミュニティ再生支援事業が実施されており、76の団体で7,200万円ほどの事業規模となっているようである。良い制度だと思うので、このような事業を復興期間終了後も継続してもらいたい。

【副会長】

地域コミュニティの顔の見える関係作りがキーワードになってくると感じている。

【委員】

この時期になると、母親たちの間でも震災の話が多くなる。生活環境が変わったような方が、当時のことを深く思い出し、うつに近いような状態になり、相談に来ることが多くなる傾向にある。そうした状況を支える必要があり、見ていて少し心配になるようなときに、未然に周りがどれだけ寄り沿うことができるかというのが大事である。

また、コミュニティの中での気づきあい、支えあいが大事である。人の気持ちには浮き沈みがあるので、気持ちが落ちた時に落ちすぎないように支えてあげるのが大事である。近い存在で見守りあうということや、気になる人にはこちらからアウトリーチしていくような、そういった活動が今後も必要になると感じている。

【委員】

河南地区では、多くの被災者が自宅再建で来られた。元々住んでいた方と、新しく来られた方とのコミュニティづくりに力を入れている。コミュニティづくりの補助金を活用し夏祭りなどを実施し、多くの方に集まっていたいている。

ウ 産業・生業の再生

(資料5に基づき産業部次長説明)

【委員】

石巻市の復興推進のプロセスの中には復興応援隊の担い手がおり、各地域の実態に即した復興支援を担ってきたという存在が、市の中で共有されていないのではないかという思いがある。丸8年、復興支援にあたってきたスタッフもいる。来年度で復興応援隊の制度が終わるという段階だが、若い人達が地域の中で、地域のために取り組むということは貴重な資源になっている。そこで育成された担い手が、制度が終了した後に、何も議論されないまま終わるということを危惧している。そうした担い手を大切な「資源」のひ

とつとして考えていただいて、今後どのように地域で活躍していただくかということも、復興のプロセスの中で考えていただきたい。

【復興政策部次長】

地域に根ざした復興応援隊の活動については、本市の貴重な「資源」であると認識している。こうした方々が今後どのように各地域で活躍できるか、活かせるかということは今後議論し検討する。

【復興政策部長】

復興応援隊の効果については委員の言うとおりでである。こうした方々に、今後継続して地域で活躍してもらうための環境整備が必要と考えている。

現在、各地域で拠点整備が行われている。地域の実情に応じて、拠点の担い手になっていただくような方向で議論を行っているところもある。現状形として出ていないところもあるが、基本的には地域の中に移行していただくことを考えている。今後も方向性を議論し検討していく。

5 その他

・主な復興事業の全体像

(資料6に基づき復興政策課長補佐説明)

【委員】

最終年度の総仕上げの時期である。被災地全体が抱える産業構造が、非常に大きなハードルに当たるような気がしてならない。自然相手の部分もあるため、今後難題が出てくることも想像される。市の皆様におかれては、民間と協力しながら、今まで以上に良い成果を得られるよう、御協力をお願いしたい。

6 閉会

【事務局】

質問票を配布している。委員の皆様で御質問等があれば、2月19日頃を目安に御提出願いたい。いただいた御質問については、次回会議等で回答させていただく。